

国連研修レポート

現代教養学部長
国際社会学科 国際関係専攻教授
黒川修司 Shuji Kurokawa

「総合教養演習(女性の生きる力)B」
として、全専攻に開かれた国連研修
の第2回目を実施しました。国連職
員のOGにご協力を仰いで、国連本
本部での4日間12コマのブリーフ
ングを学生が受けました。幸い、昨
年の参加者が積極的に質問をした
ので、講師の選定には困らなかった
そうで

す。今後も積極的な質問が出来る
ように、事前学習でのごきます。

ブリーフィング内容は経済社会
理事会在が担当する開発問題の
歴史、人口問題、SDG(持続可能
な開発目標)、国連と女性、女性
の社会参加、更にはPKO、人道
支援、UNICEFなど新しいテーマ
も加わりました。円高のお陰で
1日日程を増やしても昨年より
学生の負担は少なくすみました。

経済学と社会学の同僚に協力を
もらい、事前講義6コマ、帰国後

2コマの事後学習を経て、レポ
ートを提出して2単位を出しま
す。学生はブリーフィングと国
連で働いている日本人女性4名
のパネルディスカッション、同
窓会ニューヨーク支部の先輩と
の交流会などを体験して、将来
の選択肢に国連で働くことを考
えます。また、今年急遽実施した
30歳代の国際組織で働いている
女性5名との夕食会も大変好評
のようでした。参加者は国際社
会で使う英語力の必要性も自覚
したはずで

憧れのニューヨークでの研修を終えて

国際社会学科 社会学専攻4年
波多野愛子 Aiko Hatano

8月21日から29日までニ
ューヨークでの国連研修に参
加しました。国連本部で行わ
れた4日間12コマのブリーフ
ングでは、本学OGで国連統計
局の大崎敬子さんをはじめと
する各国国際機関で働いて
いる方から、国連の役割や「
持続可能な開発目標(SDGs)
」に対する各機関のアプロ
ーチについて学びました。国
連がボーダレスな立場である
ということを知ったと同時に、
自分に今何ができるかを考
えるきっかけとなりました。国
連で働く本学OG4人の方
からは「自身のキャリア形成
についてお話しいただき、学
びたい分野を極めること、夢
に向かってあきらめないこと
の大切さを教えていただきました。」
国連本部でのプログラムに加
えて、JPOとしてニ
ューヨークで働いている方々
との交流会、同窓会ニ
ューヨーク支部との懇親会
も行われました。留学や
転勤で海外で暮らす方
のお話から感じたことは、
キャリアは一つではないこと
です。また自由時間には、
公園や市場の散策、本場の
JAZZやミュージカル観劇を
楽しみ、ニューヨークの
雰囲気を感じることが
できました。

この研修に参加したことで
海外で働くことをより身近
に感じ、社会人になっても
夢に向かって挑戦し続け
たいと思いました。



国連本部の会議場にて(筆者は後列右端)



ブリーフィングに向かう学生たち



ブリーフィング担当者